

元気おおとよは、  
大豊町を元気にするための  
民間の団体です！

2016 夏号

# 元気おおとよ新聞

発行元：特定非営利活動法人 元気おおとよ <http://www.genki-otoyo.org> 平成28年7月1日発行 No.14

## 毎年恒例！「れいほく藤のお花見交流会」

2016年4月29日（金）祝日

嶺北4町村在住の移住者・地域住民、高知市などから、大人・子供あわせて100名程が参加！



ゴールデンウィークの初日4/29（金）祝日 12:00～、「みどりの時計台」横の体育館にて「NPO法人元気おおとよ」と「NPO法人れいほく田舎暮らしネットワーク」の共催により実施されました。この交流会は、嶺北在住の移住者同士の情報交換の場として2009年から始まり、今年で8回目。当初は参加者20名程から徐々に増え、近年は子供も含めて30～40名程の規模で行われていました。

元小学校ということで「桜」も見事なのですが、他イベントと重なることが多いので、3年前から「藤のお花見」に変更。気温も上がってくる時期なので、天気が良ければ屋外の運動場で実施しています。今年は、連休の初日もあつて、嶺北4町村在住の移住者・地域住民、高知市などからたくさんの方にきていただき、大人・子供あわせて100名程に膨れ上がりました。そのため、ポットラック形式（1品持ち寄り）のお料理も、様々な種類が並び、とても全種類は食べきれないほど。当日はとてもいいお天気だったのですが、強風と気温の低さに室内での開催になりました。



（肝心の藤の花は、枯れ始めてした...残念!）それでも徐々に風が弱まり気温が上がってくると、屋外で七輪を囲む人や、子供たちはプールサイドでオタマジャクシすくいを始めるなど、敷地全体をつかって自由な交流が繰り広げられました。なにより驚いたのが、子供の数が40名程（主に1歳未満～小学生）もいて、子育て真っ最中の家族が、こんなにも嶺北に移住しているのだということ。これまでと全く違うライフスタイルに戸惑いながらも、先輩移住者や地域の方に助けられ、嶺北での子育てにとっても満足しているよう。20～30代の若者も増えていて、嶺北でやりたいことをキラキラした目で語り、実現に向けてアクションを起こしていく、やる気パワーが充満していました。ほんとうに頼もしい限りです。このような仲間を増やし、地域住民と共に明るく暮らしやすい嶺北地域を創っていききたいと思います。

この交流会は、毎年4/29（祝）「昭和の日」12:00～に確定しています。移住者への理解・移住促進への協力を含めて、地域の皆様の参加をお待ちしています。（野田）



## 移住者紹介のコーナー

地域おこし協力隊として活動を  
始められた外子浦（げしうら）さんと  
小泉さんをご紹介



◎プロフィール◎

小泉 晶恵  
（こいずみ あきえ）さん  
出身地：大阪府豊中市  
居住地：川口  
趣味：ロードバイク  
社会福祉協議会勤務

外子浦 潤  
（げしうら じゅん）さん  
出身地：大阪府大阪市  
居住地：川口  
趣味：ロードバイク  
森林組合勤務

6月1日より地域おこし協力隊として活動を始めました、外子浦 潤と小泉 晶恵です。今年の3月、「田舎暮らしをしたい!」と移住を考えていた際に最初に目に留まったのが、大豊町の地域おこし協力隊です。

永住が希望であったため、任務期間後も継続した雇用が可能であることを知り即応募。面接時に大豊町に来て、キレイな自然と人の優しさに「ここに住みたい!!!」と思いました。

移住を考え始めて1ヶ月後には、こちらに来ることが決まっていた。

あまりの速さに私たち自身も少し戸惑いましたが、今考えれば何かご縁があったのだと思います。

まだ引越してきたばかりで、土地勘もありません。方言もうまく理解できないかも知れません。少しずつ少しずつ慣れていければと思いますので、末永くよろしくお願いたします。

パソコンで困っている事はありませんか？

## パソコン出張相談

「NPO法人 元気おおとよ」の講師があなたの「やりたい事」を応援しにご自宅へまで伺います。（有料）



## 輪投げ（出張イベント）

地域や団体での集まりがある時お気軽にお申し込みください。輪投げのセットを持参し、ルールや方法を説明させていただきます。簡単なゲームで、楽しくにぎやかにプレーできます。



## 家庭で打てる 簡単蕎麦打ち教室

家庭で簡単にできる蕎麦打ちの実習教室です。みな様お問い合わせのうえ、お気軽にお申し込みください。



詳しくは「元気おおとよ事務所」まで

73-1133（受付：平日10時30分～17時）

## 清水の舞台 ～ぬたたの農家レストラン・地遊屋お披露目 試食会～ 2016年5月22日（日）

我が家を訪れた人の多くが、庭から対岸を望む景観に感動をする。この景観をもっと感動的に見せることを考えて思い付いたのが「清水の舞台」であった。

庭の石垣から3mほど張り出し、それを4m弱の高さの丸太で支えたテラス？ウッドデッキ？を作った。ポイントは丸太支柱をくり抜いて支え合うことだったが、私の技能と持ち合わせの道具では難しくボルト止めとなり、残念ながら「清水の舞台」とまではいかなかったのが「ぬたたの舞台」とします。でも訪れた人が木の温もりと景観に一時のくつろぎを感じてくれているようで造って良かったと思っています。

この「ぬたたの舞台」を造った目的はもう一つあって、農家レストランをするための環境づくりである。平成25年2月に調理場の許可を取った時から思っていた農家レストランであったが、我が家は古民家の雰囲気はないので他に目玉になる物が必要と考え、思い付いたのが「清水の舞台」であった。

先の調理場の設置、今回の「ぬたたの舞台」は、公益財団法人トヨタ財団の地域社会プログラムに応募して採択されたことで資金援助があり出来たものである。



地域社会プログラムは、持続可能な地域社会づくりや新たな地域社会の形成などの活動を支援するもので、今回私達はIターン者の定住を図るために従来からの住民とUターン者が相互理解を図り、3者が協力して行ける環境づくりを活動の目標とした。さらに高知大学との連携で活動の活性化を図ることとしている。

こうしたことで、5月22日の日曜日に西峰にIターン予定のYさんが「ぬたたの舞台」のオープンを兼ねて試食会を主催してくれました。メニューはインド風カレーで昼は怒田部落の人に試食してもらい、夕方はYさんの友人、知人が大勢集って試食と共にライブや芸そして怒田の自然を楽しんでくれました。

「ぬたたの舞台」は、Yさんのように研修（実習）の場として活用されると共に地域の人達の交流の場として活用していただけることを願っています。知人と一緒に来て一時を和んでいただくもよし、弁当持参で景観を楽しんでもらうもよしです。

本格的な農家レストランの開店には、食材となる農産物を育てて行かなければなりません。怒田という土地ならではの食材と料理を考えながら、日々の農作業を楽しんでいます。（氏原）



## 一家に一台？小水力発電！

2回にわたり実施した地球温暖化車座学習会を通し、ざっくばらんに意見を交わす中で、大豊では高低差を利用した水力で電力を自給自足してエコになるのでは？との議論に。自作で水力発電機を作って今も使用している人がいると情報を

を受け4月9日に視察研修を実施しました！お尋ねしたのは佐賀山の三谷さんと赤根の小笠原さんで二人とも昔の技術職の経験を活かした装置を手作りしていて、我々にとってはとても先駆的な活動だったので非常に楽しく、参考になる研修となりました。



### 佐賀山の三谷さん



#### 小水力発電機

30m程の高低差の水圧を装置の両脇から下へ逃がし、タービンを回す仕組み。直流発電で、電力はバッテリーに蓄え、そこからインバーターでコンセントに。テレビやラジオ、LED照明等の低電力家電なら十分駆動出来る能力を持つ。



#### 洗濯機

三谷さんが現在開発中なのが、こちら。洗濯機だという。なんと水力で水車を回してその遠心力で衣類を洗濯するのだとか。画期的なアイデアで完成が楽しみである。



#### 米つき機

水の重力エネルギーを利用した米つき機。一定量後ろのタンクに水が貯まると重みでハンマーが起き上がり、24時間休むことなく米をつく。スペックは1臼(うす)の米をつききるのに一週間程度。

### 赤根の小笠原さん



#### 小水力発電機

現在は駆動していないが、かなり大規模な装置。直径10cm長さ100mのホースが高水圧を生み出し、タービンへとつながる。タービンの羽根は徳島の大学教授が考えた高効率の羽根の設計図を基に小笠原さんが手作り。発電機の代わりにコストの安いモーターを使用し交流400Vを出力。家の電気式ボイラーにつなぎ、お湯を沸かしていたという。これが家庭に普及すればお湯代が大幅に節約できるに違いない！

三谷さん、小笠原さん、ご協力ありがとうございました！

## 28年度 移住相談・移住実績

～途中経過～（4/1～5/31まで）

### ▼移住相談

電話・メール・来町 8件

### ▼移住実績

実績・・・8組（10名）

### ▼移住元

高知市、佐川町、大阪、東京、埼玉

### ▼移住先地域

目付、黒石、東寺内、西側、川口、立野

空き家に関する情報を募集しています。

お気軽にお問い合わせください。

電話 **080-8635-2253**

担当：野田

受付 9:00～19:00